# ●指導の実際

**事例１**　「呉市の日本遺産」を題材にした道徳科の授業（第３学年「一枚の絵」）

宮原出身の世界的デザイナー，益川 進さんが，晩年，故郷呉に帰った際に描かれた「初夏の呉港中央桟橋」を題材にした教材を開発した。活躍の場を世界に広げた益川さんが，どういう思いで故郷宮原を望む呉港の絵を描き，残したのかを考える中で，郷土愛について深く考えることができた。

**事例２**　「修学旅行での交流」（第２学年）

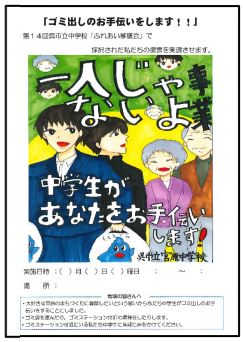
修学旅行で，呉市とともに日本遺産として認定された佐世保市の中学校を訪問した。事前に自分たちで旅行企画会社を起業してまとめた呉市の魅力を自信を持ってアピールし，呉市への修学旅行の誘致活動を行った。この活動を通して，郷土の良さを引き継ぎ，夢や希望を持ち，意欲的に粘り強くやり遂げる力を養うことにつながった。

**事例３**　「呉市の日本遺産学習ノート」の作成（生徒会及び有志）

生徒会と有志が中心となって，呉市の日本遺産について調べ，「呉市の日本遺産学習ノート」を作成した。この活動を通して，生徒，教職員共に呉市の日本遺産についての理解を深めることができた。また，総合的な学習の時間や学級活動等で使用し，生徒，教職員の興味や関心を高め，郷土愛の育成につなげている。

**事例４**　「一人じゃないよ！事業」（ボランティア活動）

平成２８年度の第３学年における社会科の課題発見・解決学習の授業で，生徒一人一人が宮原地区の課題及びその解決策について考えた。急傾斜地が多く，一人暮らしの高齢者が多いという宮原地区の課題解決のため，ごみ出しが困難なお年寄りのごみ出しをお手伝いする活動で，毎月一回実施している。現在まで２０回以上継続して行っている。




カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた指導により，教育活動全体を俯瞰して捉え，９年間の見通しをもって，道徳科と各教科，総合的な学習の時間，特別活動等のつながりを意識した総合単元的な道徳学習プログラムを開発することができた。また，呉市の日本遺産を題材とした道徳学習プログラムを作成する中で，教員の指導力向上を図ることができた。本中学校区で作成した呉市の日本遺産を題材とした教材及び道徳学習プログラムは，呉市の児童生徒の「地域を愛する心」の醸成のため，平成３０年度から呉市内の全ての小中学校で展開されている。実践を通して得られた課題を基に，さらなるカリキュラム・マネジメントの充実に取り組んでいく。